

私の生いたちと城北時代

八田 耕作

私は本郷・千駄木町の生まれで、物心ついた頃は、本郷三丁目の交差点角に在った『本郷も「兼康」(江戸時代から続く小間物屋かねやす)までは江戸の内』から、少し神田寄りの本郷二丁目に住んで居ました。五年生の夏休みに、未だ武蔵野の面影残る武蔵境に引越し、学校を去るのが嫌で一時間かけて、お茶ノ水迄、電車、後はいつも駆足で小学校迄通いました。

東京私立旧制城北中学校時代の生活は、一年生時、市ヶ谷の城北予備校の借教室、二年生時は、東上線下赤塚の小学校の借教室、やっと三年生になって、今の上板橋の地に建った二棟(教員室他・教室)に移る事が出来ました。

学校の周囲は、芋畠や全くの田園風景で、恵まれた今の校舎とは異なる木造二階建の寂しいものでした。でも自前の学校が出来て、何か誇らしい、嬉しい感じがしたものです。

私達の時代は、今と違って、スポーツと言えば、日本古来の柔・剣道、相撲しか無く野球、ラグビー、サッカー等敵性スポーツは全面禁止でした。勿論、当時の城北には、スポーツ等の部活は全く無く、若い身体を楽しみながら鍛えるには、剣道をするか、急造の土俵で相撲を取るしか無く、三年生になって、広くなった上板橋の校舎の前の土の広場で、学友の剣道を愛好する連中、川本、山本(和)、荒川、三部(総て故人)等と跣で防具、袴を着けて、思い思いに打合う事でした。特に身体の大きかった川本君の太目の竹刀で打たれた『面』は、とても痛かった思い出があります。

私事で済みませんが、私の卒業した本郷小学校には、伝統ある剣道部が有り、三年、四年生は木刀の振込み、五年生になると防具を着けて(有名な真砂町に道場の在った昭和の剣聖中山博道先生の門下で、小学校の先輩でもある剣道五段の矢部道基先生の指導で)稽古をしたものです。

城北は当時、有名な進学校、府立四中の落武者が多く、かなり優秀な者が集って来て居たと思います。その中で、私は映画や演劇を好み、休日、いつも映画等を観に行つて居りました。その頃私は川本君(一才

年上)を兄貴分と慕い、よく一緒に行動したものです。新宿の彼の家にはよく訪れ、江戸っ子気質の御両親に(独り子だった)凄く可愛がられた彼とお父上の海軍生活の思い出話を含め、いろいろ御指導頂きました。

下校時、新宿駅の一時預に鞆を預け(不良だね!)補導係の厳しい統制・監視の中で、当時最も自由な企画で、音楽劇等を演っていた、ムーン・ルージュ(客席と舞台が、とても近く、親近感があった)に通い、黒木憲三、並木瓶太郎(森繁久弥は未帰国)や、明日待子、小柳ナナ子・穂高映子等にいやされ、休日には、末広亭や大勝館等で楽しんでいましたが、いつも川本君と一緒にでした。未だ沢山、いろいろと思ひ出話は有りますが、彼とは戦後も良いつきあいが続いてきました。

だけど、違った面では、当時中央線沿線の武蔵境に住んでいた私は、小林康治・清野和夫(荻窪)・高橋正典(西荻窪)とは、帰りはよく一緒にでした。特に小林君とは(彼は身体が小さく、軍事教練時の三八式歩兵銃が重くてフラつくことが多く、その度に教官の叱責をカバーしてやったのを、恩に思ったのか)、妙に気が合い、私の家にも再三訪れたし、試験中等、彼の家に泊り込みで勉強し、そばに優しい姉君が、和裁等しながら、付き添って夜食やお茶をサービスして頂いた思い出があります。戦後も小林君には、本当に親身な友情のもとに、公私共にお世話になりました。

城北時代は、一年生の十二月に大東亜戦争が始まり、全く戦争と共に経過して行った様なもので、三年生時(昭和十八年四月〜十九年三月)は、世の中も、我々の学校生活も、戦時色が強くなり、勉強より、軍事教練や勤労働員が盛んになって来ました。

四年生になった、昭和十九年六月に、親兄弟や祖国の平安・幸運を願ひ、学徒兵として(特別幹部候補生)志願、所沢陸軍航空整備学校に入校しました。前述の親友、小林君が、警戒・空襲警報の多い中で、所沢迄二回も面会に来て呉れ(一度は課業中で、会えませんでした)、彼には戦後もいろいろ世話になり、本当に優しい心根の最良の友でした。もっとと長生きして欲しかったのですが(平成十一年九月没)。

私の城北時代の思い出や、学友達との交遊は、未だ沢山ありますが、紙面の関係もあり、この辺で、辞めて置きます。